市政に対する一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。
12月定例会では、12月10日・11日の本会議で15人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です（掲載は質問順、４面まで続きます）。

30年を経過したいきいき祭りを今後どう展開するのか

市民会議21　笠間　善晴

問　市制施行後、産業まつりから市民まつりと名を変え、ことしで31回を数えたいきいき祭りは、本市で一番大きな祭りとなっている。以前は多くの市民の参加と見物の人出でにぎわいを見せていたが、近年は以前ほどの活気が見られなくなった。ことしも雨に見舞われ市制30周年の節目の祭りとしては寂しく思われた。開催時期も暑さが厳しいということで、いろいろな意見が出ている。ほかの地域では、年々盛大になり人口の何倍も人が訪れる祭りもある。本市も、その時々の状況に合わせた内容で開催をしているが、今後どのように展開していくのか。

答　いきいき祭りは市内最大の祭りとして長年親しまれている。ことしは昼過ぎまでは例年にない来場者だった。内容は豚すきの無料配布やステージ、また、雨にもかかわらずおはやしなどを実施し、盛大のうちに終了した。今後の展開として、会場の文化会館周辺は、県道42号線の開通や周辺の土地区画整理が進んでおり、新たな会場や内容も検討している。また、次回は高校生など若者が中心となって企画するイベントも考えられており、実行委員会も若者が参加できる組織づくりを行い、市外からも見に来てもらえるような祭りとしていきたい。

公園の防犯をめぐる諸問題に市としてどう取り組むか

市民会議21　増田淳一郎

問　以前発生した風車公園の管理棟の窓ガラスやトイレ、遊具の破壊行為に対してどのような対策をとったか。また、風車公園の防犯カメラは、建物を破壊した犯人の人相や姿など、捜査の参考になる記録を残せるものか。綾南公園のあずまや付近や光綾公園の船の形をした遊具付近は、犯罪防止のため照明をもっと明るくできないか。光綾公園は、防犯のため道路からの見通しを良くする必要があると思うが、不必要な樹木の伐採や盛り土の山の撤去はできないか。また、公共心をはぐくむため、市内の中学生に公園の清掃や草花の管理をしてもらうことはできないか。

答　破壊行為への対策として、防犯協会や青少年補導員連絡協議会などによる夏季夜間防犯パトロールを実施した。また、防犯カメラは一般的に使われているものを2台設置し、10日間分記録している。照明は、防犯検討会で明るくするとかえって人が集まるとの結論になった。光綾公園の樹木は、国有財産なので防犯上必要な伐採は、国と協議して対応したい。盛り土は、子どもたちが遊びを創造しながら楽しく過ごしているので撤去しない。また、中学生による公園の美化活動は、公共心を養う上で有効であり、すでに取り組んでいる活動を紹介し、啓発に努める。

学力向上のためどのような対策が必要と考えるか

綱嶋　洋一

問　市長は教育を最も重要な政策の一つであるとし、平成20年度予算でも教育費は、前年度に比べ10％を超える大きな伸びを示している。重要な施策は成果を確認し、進める必要がある。綾瀬の未来を担う子どもたちの教育への十分な予算を確保するため、いじめや不登校の問題だけでなく、子どもたちの学力向上を、どのようにすればよいか、現状を市民や保護者に明らかにし、広く議論する必要がある。そこで、本市の児童・生徒の学力の現状をどう認識しているか。また、一層の学力向上のためにどのような対策が必要と考えるか。

答　本市の子どもたちの学力の現状は、授業で学ぶ基本的な内容は定着していると認識している。しかし、思考力と表現力には課題があると考え、それらの育成を図るため、学習活動を意図的、計画的に設定して授業改善を進めている。また、学力の一層の向上には、家庭学習の取り組みが大切であるが、本市の児童・生徒は家庭での学習時間が少なく、家庭学習の習慣化が十分でないという現状もある。したがって、家庭でも学習の習慣化が図られるよう計画の立て方を指導するとともに、保護者と連携した取り組みを進める。

（ほかに「市税の徴収状況について」を質問）

家庭用炊飯器で炊いたほかほかご飯を学校給食に

日本共産党　上田　博之

問　ステンレス製の弁当箱の押しつぶされたご飯でなく、学校内で家庭用炊飯器を使用して炊いたほかほかのご飯を茶碗で食べる給食に変えることを提案したい。最高のおいしさになるだけでなく、今の米飯一食60円の経費が32円程度に抑えられる。綾瀬産の米を優先的に使用することで、本市の農業を励まし、さらに田植えや稲刈りなどの体験学習をとおして食育の効果が増大する。また、補正予算を組み、給食費の値上げを回避するべきである。将来的に給食センター方式から自校方式の給食への転換を展望してほしい。

答　家庭用炊飯器による米飯給食は15校７０００人分の設備や食器の用意、衛生管理、人的配置などすべてを見直さなければならず、さらには米の調達の課題など、現状の中で早期にすべてを解決できるとは考えていないため、提案として受け止めさせてもらう。また、給食費の仕組みは、原材料費を給食費で賄い、それ以外を公費で賄うというのが原則である。今回は原材料費の高騰から、運営する上で必要な額の値上げであり、公費をつぎ込むことは検討していない。

（他に「1年以内に避難所の体育館などのガラスに飛散防止対策を」を質問）

景気悪化状況での中小企業対策と雇用対策を問う

日本共産党　松本　春男

問　市内の中小企業は、仕事が減って厳しい状況にある。また、これまで市の経営安定化資金は保証協会が１００％保証していたが、協会が80％、金融機関が20％保証する責任共有制度を導入したことで、貸しはがしや貸し渋りが広がっている。市として国を動かし、事業者が安心して融資を受けられるようにすべきであるが、市内中小企業への対策は。また、自動車業界などでは大量解雇の嵐が吹き荒れ、近隣のいすゞ自動車藤沢工場でも９６０人の期間工、派遣職員の解雇予告が発表されたが、市内の雇用状況と対策は。

答　中小企業に対する新たな融資保証制度が始まり、対象業種が拡大したことで利用は増えている。本市も各種融資制度の啓発、支払利息や信用保証料の一部を補助するなどの支援を行っている。また、金融機関には積極的な支援と貸し渋りなどがないよう協力を呼びかけた。現在のところ、市内では企業の倒産や派遣労働者などの契約期間中の解雇はないと聞いている。世界的な景気低迷の中、自動車業界のみならず、あらゆる業種に不況が飛び火しており、今後も関係機関と連携し、いち早く対応できるよう状況把握に努める。

（ほかに「道路の安全対策」、「アレルギー対策」を質問）

１月10日から２月１日まで、「かながわの遺跡展2008・巡回展」が市民展示ホールで開催されました。１月17日には講演会も開かれ、参加者は講師の説明を熱心に聞いていました